



発行所
日刊自動車新聞社
東京都港区芝大門1丁目10番11号
購読料 1カ月5343円+税
電話 東京(03)5777-2351代表
©日刊自動車新聞社2019



11月21日
(木曜日)

ディーアイシージャパン 「新一等書記官」



佐藤憲司社長

ツカサ工業

(長野県大町市)

1971年創業のツカサ工業(佐藤憲司社長、長野県大町市)は、トラック・バスや建設機械の整備を得意とし、働く車の万事屋(よろずや)として幅広い車両に対応する。従業員は22人で、メカニックは社長含めて18人。年間の車検台数は約1千台で、BPや溶接、ユニック(クレーン)の検査も行うことができる。

同社では、大型免許やフォークリフトなどの建設荷役車



外観

両資格のほか、玉掛作業などのクレーン資格といった様々な資格を会社負担で社員に取得させている。「点検でき

高い操作性、情報一元管理で効率化

る「運転できる」との佐藤社長の考えからであり、車両入庫と同時に上もの(架装)の点検も行うことができるため、効率がよいと顧客から好評だ。

同社がディーアイシージャパンの「新一等書記官」に乗り替えたのは約10年前。当時導入した検査機器と連動することで導入を決めたが、導入後に他社のシステムに浮気をしない理由の一つに操作性の高さを挙げる。シンプルなUI(ユーザーインターフェイス)に加え、色遣いも視覚に訴えるように工夫されているため、直感で操作できる作りとなっている。またデータ等も特徴だ。



新一等書記官では自動車整備業に関する情報を一元化できる

め、違和感なく入力できるのも大きな要因だという。新機能も備えている。国交省が発表したリコール情報も



除雪車などの整備も請け負う

ら日整連の整備情報提供システム「F.A.I.N.E.S.(ファイネス)」のほか、リコール情報とリンクするため機会損失を防ぐことも、顧客の信頼も高めることができる。請求など必要な書類はすべて電子化されているなど、自動車整備業に関するほとんどの情報を管理することができるため、効率化に大きく寄与している。

導入後の作業効率は、紙へ記述時の約3分の1、導入前のシステムと比較しても約2分の1までに向上。短縮した時間を作業に充てることができるため、整備工場における最重要事項に「技術力」を掲げる佐藤社長にとっては必要不可欠な存在だ。

このほか、継続検査のワンストップサービスと電子保適を一括管理するクラウド型ソフト「OSS&e・HOTELKI」では、特殊車両にも完全対応。データ保管は日々のバックアップデータをクラウドサーバーに預ける「仁王バックアップ」を用意する。昨今、大型台風による洪水など自然災害が毎年のように起きているので、万が一に備え、整備工場の「命」とも言える顧客データをクラウドサーバーに預けておける仁王バックアップも注目されている。

日刊自動車新聞社が記事利用を許諾しています。

掲載日 2019年11月21日 日刊自動車新聞 7面

©日刊自動車新聞社 無断複製転載を禁じます。